

(様式 1) 実施報告書-プログラム B

1 補助事業者情報

団体名	広島市
-----	-----

2 事業の概要

1. 事業の名称	広島市における外国人市民の日本語能力向上支援事業
2. 事業の期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 1 0 日

3. 事業実施前の現状と課題

広島市に在住する外国人市民数は、令和元年 1 2 月末時点で 2 0, 3 5 1 人、総人口の約 1. 7 % を占めている。前年同時期と比較すると、日本人が 1, 5 2 7 人減少する一方で、外国人は 1, 1 6 4 人の増、率にして 6 % 増加している。

市では、日本語教育の実態を把握するため、令和元年 9 月から 1 2 月の期間で外国人、外国人雇用企業、日本語教室、日本語学校・日本語教師養成機関を対象に日本語教育実態調査を実施した。

(1) 日本語教育実態調査の概要

① アンケート調査

令和元年 6 月末時点で広島市の住民基本台帳に記載されている満 1 8 歳以上の外国人市民及び広島市内の企業、日本語教室、日本語学校・日本語教師養成機関を対象とした、郵送配布・郵送回収によるアンケート調査を実施した。

<アンケート調査結果>

調査区分	発送数	回収数	回収率
外国人調査	1, 0 0 0 件	3 6 9 件	3 6. 9 %
外国人雇用企業	8 4 件	4 8 件	5 7. 1 %
日本語学校	4 件	4 件	1 0 0. 0 %
日本語教師養成機関	1 件	1 件	1 0 0. 0 %
日本語教室	1 9 件	1 7 件	8 9. 5 %

② ヒアリング調査

アンケート調査に回答した企業のうち、外国人を雇用している広島市内企業 1 0 社及び市内で実施している日本語教室に通っている外国人市民 3 6 人を対象としたヒアリング調査を実施した。

(2) 調査結果の概要

上記の日本語教育実態調査の結果、以下のような現状と課題が判明した。

① 外国人

外国人市民には、日本語の学習を独学のみとする人や、日本語を学びたいが時間的・金銭的余裕がない、勉強方法が分からない、日本語教室の情報が無い等の理由から日本語を学べない人が一定数いる。そのため、日本語を学びたい人が、自分に適した方法で学ぶための情報提供や、就労している人も日本

語学習ができる環境づくりが必要である。

② 外国人雇用企業

企業における日本語学習は、自社社員が講師となり限られた期間で実施しているケースが多く、継続的な実施が行われていない。企業としては、講師を雇ったり継続的に学習機会を設けたりすることに対して、費用対効果が低いとの認識もうかがえる。こうした現状から、企業が外国人労働者に対して日本語学習の機会を提供するための支援、動機付けが必要である。

企業には、市から外国人に提供できるイベント、取組、生活関係の情報が欲しいというニーズがあるが、市では外国人を雇用している企業の情報を把握する効果的な方法がないことから、企業と行政の情報共有の仕組みづくりが必要である。

③ 日本語教室

教室運営上の課題として、ボランティアスタッフの不足、学習者の流動性、教材の不足、会場の確保困難、運営費の負担、レベル別の指導方法を行えていない等が共通しており、これらの課題を解決し、ボランティアの負担軽減を図り、活動を継続しやすくする支援が必要である。

4. 目的

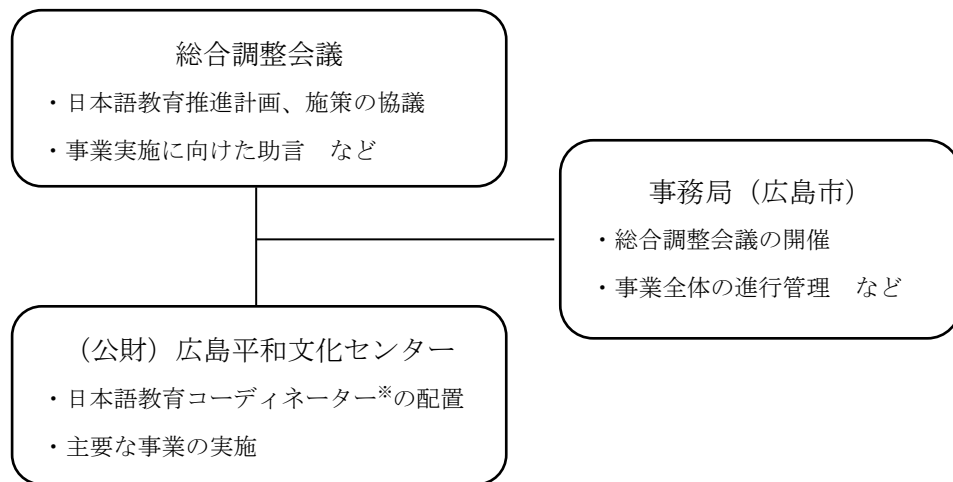
本市で日本語学習を希望する外国人に対し、日本語学習に関する情報提供を充実させるとともに、日本語学習機会の充実を図る。そのために、日本語教室に関する情報提供方策の検討、日本語教室を担う人材の養成や既存のボランティアスタッフのスキルアップ、日本語教室へ通うことができない学習者のための学習機会提供方法の検討等に取り組み、市内の関係機関（大学、日本語学校、二国間団体等）と連携しつつ、日本語教育の実施体制の構築を図る。また、ボランティアによる日本語教室の運営上の課題解決のための方策を検討し、教室を担うボランティアの負担を軽減し、持続可能な日本語教室の運営に資する。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。）

本市では、日本語教育事業を広島市市民局人権啓発課多文化共生担当で行っているため、同課に事務局を設置し、事業実施については総合調整会議での審議を経て進めることとした。

主要な事業の実施は、これまでも本市の日本語教育人材養成事業の受託実績がある公益財団法人広島平和化センターへ委託して実施した。



※総括コーディネーターが地域日本語教育コーディネーターを兼ねる。

《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	渡部 倫子	広島大学大学院人間社会科学研究科	教授	日本語教育の専門家としての知見
2	上口 雅彦	公益財団法人広島平和文化センター	国際交流・協力担当部長	日本語教育支援事業実施者の立場からの参画
3	橋本 優香	公益財団法人広島平和文化センター国際交流・協力課	日本語教育コーディネーター	日本語教育実施の担当者

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

公益財団法人広島平和文化センターと連携・協力を図りながら、事業を委託し実施した。また、日本語教育総合調整会議や日本語教室ネットワーク会議（後掲「取組4」参照）を活用し、市内の日本語学校や日本語教室等との連携を取って事業を実施した。

4 令和2年度の事業概要

1. 令和2年度の実施目標

- ・日本語教育コーディネーターを配置し、ボランティアによる日本語教室への支援体制づくりに着手する。
- ・ボランティアによる対応が困難とされる入門レベルの日本語講座を本市が実施することにより、ボランテ

ィアの負担軽減の一助とするとともに、同講座を日本語教室の運営を担う人材育成の場としても活用する。				
2. 実施内容				
(取組1) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	渡部 倫子	広島大学大学院人間社会科学研究科	教授	日本語教育の専門家としての知見
2	福永 尚子	広島 YMCA 専門学校言語コミュニケーション科	専任講師	日本語教育機関の現状等に関する助言等
3	犬飼 康弘	公益財団法人ひろしま国際センター研修部	日本語常勤講師	日本語教育の専門家としての知見
4	部谷 修	広島ベトナム協会	理事長	外国人市民の現状等に関する知見
5	落合 正典	公益財団法人国際人材協力機構 (JITCO) 広島駐在事務所	所長	外国人雇用企業、監理団体等支援団体としての知見
6	光原 鈴江	ひろしま日本語教室	代表	地域日本語教室の実施者としての参画
7	新川 エミリア	広島市多文化共生市民会議委員		外国人市民の立場からの参画
8	田中 知子	広島県社会福祉協議会 中国・四国中国帰国者支援・交流センター	教務主任	中国帰国者支援団体としての知見
9	原田 利博	広島市立二葉中学校	教頭 (夜間学級担当)	夜間学級実施者としての参画
10	上口 雅彦	公益財団法人広島平和文化センター	国際交流・協力担当部長	日本語教育支援事業実施者の立場からの参画
11	橋本 優香	公益財団法人広島平和文化センター国際交流・協力課	日本語教育コーディネーター	日本語教育コーディネーターとしての参画
②実施結果				
実施回数	3回			
実施スケジュール	第1回：令和2年5月27日 第2回：令和2年7月28日 第3回：令和3年1月29日			

主な検討項目	第1回 ・令和元年度の事業報告 ・令和2年度の事業内容（新型コロナウイルス感染症に配慮した事業実施など） 第2回 ・国の動向について（外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（令和2年度改訂）及び日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針） ・令和2年度事業の進捗状況、今後の予定 第3回 ・令和2年度事業実施状況の報告 ・令和3年度事業計画案
（取組2）総括コーディネーターの配置	
主要な事業の委託先である広島平和文化センターに、総括コーディネーター（橋本 優香）を配置した。今年度のコーディネーターの主な活動実績は次のとおりである。 ・ 入門レベル日本語講座のカリキュラム策定、講師選定 ・ ボランティア養成事業の企画、講師選定 ・ 地域の日本語教室訪問 ・ 地域の日本語教室立ち上げ支援 【配置時期】 令和2年5月～令和3年3月 【勤務形態】 原則として1日8時間、週3日勤務	
（取組3）地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組	
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【()】 総括コーディネーターが兼務した。	
【重点項目】	
（取組4）都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組	
○広島市日本語教室ネットワーク会議の開催 日本語教室ボランティアグループの活性化を図り、外国人市民の暮らしやすさに配慮したまちづくりの推進に資するため、広島市日本語教室ネットワーク会議を開催した。ボランティア同士が自由に意見・情報交換できる場を提供し、互いに連携協力できる関係づくりを進めた。また、オンライン会議システムの勉強会の場としても活用した。 第1回：令和2年9月8日（火）10：00～11：30 ・ 広島市日本語教育推進計画について ・ 日本語教育コーディネーターの紹介 ・ ボランティア同士のアイスブレイク、情報交換 第2回：令和3年2月9日（火）13：30～15：30【オンラインで実施】	

- ・令和２年度事業の報告
- ・オンライン会議システム Zoom の操作体験等勉強会

○外国人雇用企業等との連携体制の構築のための準備

令和元年度に行った実態調査や、令和２年度に行った企業・監理団体の個別訪問から、企業における日本語教育は雇用（受入）直後のみ実施しており、継続的には行っていないことが分かった。また、日本語教育に必要なノウハウが不足している企業も多く見受けられた。

こうしたことから、企業が日本語教育の機会を提供するための支援として、日本語教育コーディネーターによる助言や日本語教育人材と企業とのマッチングに取り組むことについて検討し、総合調整会議で了解を得た。

（取組５）日本語教育人材に対する研修（研修受講者数：４９人）

○日本語ボランティア養成講座

- ◆ 実施期間：令和２年１０月６日～１１月１７日（火・金曜日の午前）
- ◆ 場所：広島国際会議場３階研修室
- ◆ 回数：「はじめてクラス」・「文法クラス」 各５回（各回９０分）
- ◆ 講師：福永尚子先生、石川裕大先生、末田朝子先生（広島YMCA）
- ◆ 参加者：「はじめてクラス」 ２１名、「文法クラス」 ２０名

受講者のニーズに合った講座を提供するため、「はじめてクラス」と「文法クラス」の２講座に分けて開講することとした。

「はじめてクラス」は日本語ボランティアの経験がない人を受講対象とし、より広い層の市民に日本語ボランティアに関心を持ってもらい、ボランティア層のすそ野を広げることを目指した。

「文法クラス」は日本語ボランティア活動を始めて間もない人を受講対象とし、教えるための日本語の理解と教え方について考える契機とした。

また、今年度から本講座の受講者が（取組６）活動１の入門レベル日本語講座にサポーターとして参加した。これにより、本講座受講後に地域で日本語ボランティア活動を行う心理的ハードルを下げ、より活発な活動や新規教室立ち上げを促すことができた。本講座の受講者がメンバーとなって日本語教室（２教室）が令和３年３月及び５月に新たに立ち上がる予定である。

○日本語ボランティア スキルアップ講座

- ◆ 日時：令和２年１２月１９日（土） １３：３０～１５：３０
- ◆ 場所：オンラインで実施
- ◆ 講師：県立広島大学 准教授 中石ゆうこ先生
- ◆ 参加者：８名

日本語ボランティアの資質向上を図るため、スキルアップ講座を実施した。「日本語の教え方を振り返ってみよう」と題し、口頭での受け答えの能力を測定するためのインタビューテストである OPI（オーラル・プロフィシエンシー・インタビュー）の手法を学ぶ講座とした。地域の日本語教室のボランティアで数年以上活動している８名が参加した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催した。

(取組 6) 地域日本語教育の実施																																																								
【○】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育																																																								
【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育																																																								
実施箇所数	1 か所 (新設)	受講者数	9 名																																																					
活動 1	【名称】 入門レベル日本語講座 (へいわこうえん日本語教室)																																																							
	【目標】 地域の日本語教室での指導が困難な初学者を対象に、ひらがな・カタカナや基礎的なやりとりを指導した。本教室の修了後、地域の日本語教室に橋渡しをすることを目指した。																																																							
	【実施期間】 令和 2 年 9 月 2 9 日～1 2 月 1 1 日 (火・金曜日の午後)																																																							
	【実施回数】 2 3 回 (1 回 2 時間)																																																							
	【受講者数】 9 人 (9 人×1 か所)																																																							
	【実施場所】 広島国際会議場 3 階研修室																																																							
	【受講者募集方法】 市内各施設・外国料理店・外国人従業員が多数在籍する学校・保育所でのチラシの配布、市及び広島平和文化センターの HP で募集、広島市等で活動する日本語教師に情報提供																																																							
	【内容】																																																							
	指導は日本語教師の有資格者 2 人が交代で実施し、(取組 5) の日本語ボランティア養成講座の受講者を当講座の学習支援者として参加させることで、活動イメージを持たせ、地域の日本語教室での活動につなげる実践の場とした。																																																							
	全 2 3 回の講座終了後、交流会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。その後も希望する学習者に対しては、オンラインで日本語学習のサポートを続けている。																																																							
具体的な指導内容：																																																								
	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>簡単なあいさつ ひらがな</td></tr><tr><td>2</td><td>簡単なあいさつ ひらがな</td></tr><tr><td>3</td><td>教室で使う言葉 カタカナ</td></tr><tr><td>4</td><td>教室で使う言葉 カタカナ</td></tr><tr><td>5</td><td>自己紹介</td></tr><tr><td>6</td><td>家族紹介</td></tr><tr><td>7</td><td>書道体験</td></tr><tr><td>8</td><td>好き・嫌い</td></tr></table>	回	内容	1	簡単なあいさつ ひらがな	2	簡単なあいさつ ひらがな	3	教室で使う言葉 カタカナ	4	教室で使う言葉 カタカナ	5	自己紹介	6	家族紹介	7	書道体験	8	好き・嫌い	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>9</td><td>料理・店</td></tr><tr><td>10</td><td>家</td></tr><tr><td>11</td><td>部屋にあるもの</td></tr><tr><td>12</td><td>時間</td></tr><tr><td>13</td><td rowspan="2">お好み焼き体験</td></tr><tr><td>14</td></tr><tr><td>15</td><td>スケジュール</td></tr><tr><td>16</td><td>趣味</td></tr></table>	回	内容	9	料理・店	10	家	11	部屋にあるもの	12	時間	13	お好み焼き体験	14	15	スケジュール	16	趣味	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>17</td><td>誘う</td></tr><tr><td>18</td><td>交通手段</td></tr><tr><td>19</td><td>地図</td></tr><tr><td>20</td><td>ほしいもの</td></tr><tr><td>21</td><td>買い物</td></tr><tr><td>22</td><td>買い物体験 (商店街散策)</td></tr><tr><td>23</td><td>復習</td></tr><tr><td>24</td><td>交流会の予定だったが中止</td></tr></table>	回	内容	17	誘う	18	交通手段	19	地図	20	ほしいもの	21	買い物	22	買い物体験 (商店街散策)	23	復習	24	交流会の予定だったが中止
回	内容																																																							
1	簡単なあいさつ ひらがな																																																							
2	簡単なあいさつ ひらがな																																																							
3	教室で使う言葉 カタカナ																																																							
4	教室で使う言葉 カタカナ																																																							
5	自己紹介																																																							
6	家族紹介																																																							
7	書道体験																																																							
8	好き・嫌い																																																							
回	内容																																																							
9	料理・店																																																							
10	家																																																							
11	部屋にあるもの																																																							
12	時間																																																							
13	お好み焼き体験																																																							
14																																																								
15	スケジュール																																																							
16	趣味																																																							
回	内容																																																							
17	誘う																																																							
18	交通手段																																																							
19	地図																																																							
20	ほしいもの																																																							
21	買い物																																																							
22	買い物体験 (商店街散策)																																																							
23	復習																																																							
24	交流会の予定だったが中止																																																							

	【講師】 日本語教師 2人 【関係機関との連携】 ・日本語学校にチラシの配布を依頼した。 ・大学の留学生担当に日本語教室の周知を依頼した。 ・課外授業として見学先に地元企業「オタフクソース」を選定し、「お好み焼き体験」を実施した。 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり
活動2	【名称】 ボランティアによる日本語教室 【目標】 既存のボランティアによる日本語教室を支援することで、幅広い日本語学習機会を確保する。 【実施回数】 延べ約400回（1回1時間半～3時間） 【受講者見込数】 290人程度（15人×19か所） 【実施場所】 市内日本語教室 【受講者募集方法】 各ボランティアグループ等が独自で募集活動を行った 【内容】 ボランティアが地域に在住する外国人を対象に、各教室の学習者のニーズに応じた日本語指導を行った。なお、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、数か月間教室の開催を見合わせたところも多くあった。 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
その他の取組	
【名称】 「やさしい日本語」講座 【日時】 令和2年9月26日（土） 13:30～15:30 【実施箇所数】 1か所（広島国際会議場3階研修室） 【実施時間数】 計2時間 【参加者数】 20名 【具体的な実施内容】 地域住民と外国人市民とのコミュニケーション促進の一助とするため、わかりやすく平易な日本語でコミュニケーションをとる方法を学ぶ「やさしい日本語」講座を開催した。広島市内に住む外国人市民数や出身地などの現状についての講演に続き、「やさしい日本語」の使い方について学ぶ内容とした。災害情報などの文章を実際に「やさしい日本語」に書き換える練習も行った。 【名称】 外国人のための安全講習会 【日時】 令和2年9月28日（月） 10:00～11:30 【実施箇所数】 1か所（広島県警察本部） 【実施時間数】 計1時間半 【参加者数】 15名	

【具体的な実施内容】

広島県警との共催で、日本の習慣や規則に不慣れな外国人市民を対象に、事件事故や犯罪に巻き込まれないよう注意事項を学ぶ安全講習会を実施した。「安全」に関する日本語に触れる機会を提供するとともに、日本で暮らす上で必要な情報を提供することを目指した。

【名称】多文化共生×JICA in 広島 ～海外協力隊経験を地域の日本語教室で生かす～

【日時】令和3年2月21日（日）19：00～21：00

【実施箇所数】1か所（オンライン）

【実施時間数】計2時間

【参加者数】約70名（入退室自由としたため概数）

【具体的な実施内容】

広島県内各地の地域の日本語教室で活動する青年海外協力隊経験者4人が登壇するオンラインセミナーを開催した。言葉や文化の違う地域での活動経験を持つ協力隊経験者を地域の多文化共生を推進するリソースと捉え、その掘り起こしを目的とした。地域の日本語教室で活動するボランティアや学生の参加も多く、日本語教育や多文化共生に関わりたい人材がつながる機会となった。

受講者は、外国人への支援（日本語教育や生活支援）に対する関心が高く、活発な意見交換が行われた。

【名称】文化理解講座「おりがみでひなまつり」

【日時】令和3年3月7日（土）14：00～16：30

【実施箇所数】1か所（広島市西区）

【実施時間数】計2時間半

【参加者数】15名

【具体的な実施内容】

地域住民と外国人の交流や、日本語学習のきっかけづくりを目的として、ひな祭りや折り紙という日本文化を紹介するイベントを開催した。外国人だけでなく日本人も自由に参加できるとし、折り紙講師を公民館で活動するサークルに依頼したことで、普段は出会わない地域住民と外国人が交流する場を設けることができ、また地域で外国人を支援する人材の発掘にもつながった。

3. 効果

（1）効果

①定量評価

- ・総合調整会議：前年度（－）回 当年度（3）回
- ・総括コーディネーター配置数：前年度（－）人 当年度（1）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（－）人 当年度（1）人
- ※総括コーディネーターが地域日本語教育コーディネーターを兼ねる。
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：前年度（10）回（1箇所） 当年度（11）回（1箇所）
- ・実施した日本語教室※：前年度（－）回（－箇所） 当年度（23）回（1箇所）

※広島市実施分のみ記載している。

②定性評価

(i)連携機関の広がりについて

令和2年度事業を実施する中で、日本語学校、公民館、広島県警、広島県 JICA デスクと新たに連携することとなった。

(ii)新たな連携機関と連携した内容

ア 日本語学校

日本語学校（広島YMCA）には、（取組5）日本語ボランティア養成講座の講師として日本語教師3名の派遣を依頼した。また、広島県内の日本語教育の状況や日本語教育人材の情報、外国人住民の実情について聞き取りを行った。

イ 公民館

(ア) 日本語教室立ち上げ

日本語教室の多くが公民館を拠点としているため、市内の全ての公民館（71館）に電話で日本語教室開催の意向についてヒアリングを行った。そのうち1館が、地域に日本語教室の需要があることを把握しており、日本語教室立ち上げに意欲があったが、日本語ボランティアとのつながりがない状況であった。

このため、「日本語ボランティア養成講座」（取組5）の受講者で、この公民館に通える地域に住んでいる人に声をかけ、立ち上げへの参加を打診するとともに、「入門レベル日本語講座」（活動1）に優先的にサポーターとして参加できるようにし、公民館での立ち上げに向けて自信をつけてもらった。

また、公民館が自らボランティア養成講座を開催できるよう、日本語学校（広島YMCA）を紹介した。令和3年3月に公民館事業として日本語ボランティア養成講座を実施する予定である。

(イ) 文化理解講座「おりがみでひなまつり」

公民館を通じ、公民館で活動しているグループの情報収集やイベントへの参加要請を行った。

ウ 広島県警

その他の取組「外国人のための安全講習会」は広島県警との共催で実施し、警察官による講習、県警本部等の見学など、全面的な協力を得た。講習会では外国人が巻き込まれやすい事件や事故についての情報や、県警における多言語対応の状況についての情報を得ることができた。

エ 広島県 JICA デスク

広島県 JICA デスクが保有するメーリングリストや Facebook を活用し、令和3年2月21日に実施したオンラインセミナーの広報を行った。これまで本市の日本語教育事業を知らなかった人も含め、多くの反響があった。

(iii) どのような体制を構築できたか

- ・外国人と接する機関（広島平和文化センター、日本語学校、総合調整会議の参加団体）
- ・日本語教育人材と接する機関（日本語学校、広島県 JICA デスク）
- ・地域社会とつながる機関（公民館、広島県警）

以上の機関との間で情報やノウハウの共有を進めたことにより、日本語教育を起点として、地域におい

て外国人市民を受け入れていくための体制づくりを一步進めることができた。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

ア 広島市広報紙「市民と市政」及び広島市ホームページへの掲載

- ・ 9月1日号「市民と市政」において、日本語教育コーディネーターの配置や「やさしい日本語講座」の受講生募集について記事を掲載した。
- ・ 広島市ホームページに外国人市民のための日本語能力向上支援の取組を掲載した。

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/yasashii/191320.html>

イ (公財) 広島平和文化センター機関紙「平和文化」及び同センターホームページへの掲載

- ・ 7月号、11月号、3月号「平和文化」において、外国人市民のための日本語能力向上支援の取組を掲載した。
- ・ (公財) 広島平和文化センター国際交流・協力課ホームページにおいて、日本語学習支援のページを設け、市の委託により実施した各講座の内容や、地域の日本語教室の情報を掲載した。

<https://h-ircd.jp/guide/nihongo.html>

ウ 新聞掲載

市政記者クラブへのプレスリリース等を行ったことで、以下のとおり新聞掲載に結び付いた。

- ・ 総合調整会議の開催 1件
- ・ オンラインセミナーの事前告知 1件
- ・ 実施した事業を取り上げた記事 3件
- ・ 日本語教育に関する記事（平和文化センターが取材を受けたもの）1件

エ SNSを通じた情報発信

コロナ禍において、外国人市民が孤立しないよう、迅速な情報提供の必要性が高まっていることもあり、令和2年6月15日に公式Facebookページを立ち上げた。立ち上げから令和3年2月末までに約60回投稿し、フォロワーは約150人となっている。日本語入門教室での活き活きとした学習者の姿や、地域の日本語教室のボランティアの奮闘等を市民にできるだけ身近に感じてもらうために、動画による臨場感のある配信に努めた。日本語事業の広報以外に広島市からの災害情報、NHKや朝日新聞等報道機関から提供される「やさしい日本語」によるニュース等も発信した。

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

① 課題とその対応

地域の日本語教室においては、ボランティアスタッフの不足やレベル別の指導が行えていない、外国人学習者が定着しない、などの課題があった。また、地域の日本語教室のほかにも、外国人が日本語を学ぶ機会を提供することも課題であった。

このため、今年度実施した日本語ボランティア養成講座（取組5）では、クラスを「はじめてクラス」と「文法クラス」の2つに分け、特に「はじめてクラス」ではボランティア未経験者を対象とし、ボランティア層の裾野拡大を目指した。あわせて、日本語教育コーディネーターを配置し、

日本語教室からの相談に応じる体制を整えた。

また、今年度から入門レベル日本語講座（取組6活動1）を実施し、地域の日本語教室での指導が困難な初学者を対象とした。対面による授業23回の終了後はオンラインによる学習支援も開始しており、外国人に新たな学習機会を提供することができた。一定のレベルに達した後、地域の日本語教室への橋渡しをすることで、地域の日本語教室の負担軽減にもなると考えている。

なお、委託先である（公財）広島平和文化センターは、財団独自の補助制度を拡充し、日本語教室の運営支援を行うことを検討した。令和3年度上期分から、申請があった2つの日本語教室に対し運営費の一部を補助する予定である。

② 困難な状況とその対応

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、受講定員の削減や日程の変更などの対応が必要となったが、5月中旬に（公財）広島平和文化センターと協議し、事業の進め方についての考えを早期に共有したことで、スムーズな事業実施につながった。公式 Facebook ページの立ち上げやオンライン形式でのスキルアップ講座実施など、新しい試みにもつながった。

（2）今後の展望

事業の内容は充実してきたが、参加者募集に苦戦した講座もあったため、外国人市民への認知度向上には更なる取組が必要であると考えている。今年度の受講者や、今回新たに連携することとなった各機関と連携するなどして、外国人市民への周知に取り組んでいきたい。

また今後、長期的には、コーディネーターの企業訪問などを通じ、外国人就労者への日本語学習の機会提供に対する企業側の理解と協力を得て、日本語教育に関する企業等との連携体制を構築していきたい。

【参考資料】

○チラシ

- ① 日本語ボランティア養成講座（はじめてクラス）
- ② 日本語ボランティア養成講座（文法クラス）
- ③ 日本語ボランティア スキルアップ講座
- ④ 入門レベル日本語講座（英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語）
- ⑤ やさしい日本語講座
- ⑥ 外国人のための安全講習会（日本語、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語）
- ⑦ 多文化共生×JICA in 広島
- ⑧ おりがみでひなまつり（日本語、英語、中国語、スペイン語、ベトナム語）
- ⑨ 公式 Facebook

○アンケート

- ① 日本語ボランティア養成講座（はじめてクラス・文法クラス）
- ② 入門レベル日本語講座
- ③ 多文化共生×JICA in 広島

○広報紙記事

- ① 9月1日号「市民と市政」
- ② 7月号「平和文化」
- ③ 11月号「平和文化」
- ④ 3月号「平和文化」

○新聞記事

- ① 総合調整会議の開催（中国新聞）
- ② 多文化共生×JICA in 広島 告知記事（中国新聞）
- ③ 外国人のための安全教室（中国新聞）
- ④ 外国人のための安全教室（朝日新聞）
- ⑤ 日本語ボランティア スキルアップ講座（中国新聞）
- ⑥ 日本語教育関連記事（朝日新聞）